

1 全体計画

学校の教育目標

- ・自ら考え 正しく判断し 実践できる人
- ・自他を大切にし 社会に貢献できる人
- ・健やかで 人間性豊かな人

令和3年度学校経営方針(目指す学校像)

- 1 生徒の力を伸ばし、一人ひとりを大切に作る学校
- 2 いじめがなく、すべての生徒が楽しく生活することができる学校
- 3 将来にわたって必要となる力を身につけさせ、「たくましく生きる力」を培う学校
- 4 生徒が自らの存在意義を実感し、将来の夢を育むことができる学校
- 5 保護者・地域から信頼され、連携して生徒を育てる学校

本校の捉える「確かな学力」

- ・学力の向上と基礎基本の定着
- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・GIGA スクールによる新しい学びの創造

令和3年度の指導の重点

<各教科>

- ・各教科の目標及び学校の教育目標を達成するために、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、小グループによる討論やプレゼンテーション等の学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- ・生徒一人ひとりの意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す。そのために「全国学力学習状況調査」及び「中野区学力にかかわる調査」の結果を踏まえ、指導と評価の一体化等を工夫し授業改善プランに反映させる。

<特別の教科 道徳>

- ・教育活動全体を通して、生命尊重・人間尊重の精神を基盤に人としてのあるべき姿を学ばせ、社会人としてたくましく生きる力を育成する。

<特別活動>

- ・特別活動を学校教育全体を通して行うキャリア教育の要として位置づけ、教育活動を展開する。
- ・学級・学年・生徒会等の活動を通して、様々な集団の一員としての自覚を高め、自主的、実践的に活動する態度を育成するとともに、人間関係形成の土台を培う。

<総合的な学習の時間>

- ・総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の探究プロセスを基に生徒一人ひとりの資質能力の向上を図るように各学年が創意工夫して取り組む。テーマを主体的に設定し、広い視野に立ち多面的に追究する研究を行うことで、自らよりよい生き方に役立てようとする意欲や能力を育み、生きる力を育成する。

<生活指導>

- ・日常のあらゆる場面を捉えて、生命の大切さや尊さ、生きることの素晴らしさを理解させ、自己肯定感を高めさせるとともに、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成する。
- ・社会の一員として社会生活のルールを守る態度を養い、自他を大切に、思いやり豊かな生徒の育成を図る。

<進路指導>

- ・3年間を見通した進路指導計画を更に充実させ、将来を見通した学習や生活をするための指導・援助を行うために、学年ごとに「キャリア・パスポート」を活用し、年間の計画に位置づけて指導を展開する。自己理解を深めさせることで、主体的に進路を選択して自己実現を図る能力・態度を育成する。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

一人一台の端末および Google Classroom や ICT 機器を活用した主体的かつ対話的に学ぶ、ニューノーマルの学習を実現する。

教育課程編成上の工夫

学校が抱える様々な教育課題を改善し、絶えず変化する社会情勢に対応できるように、カリキュラムマネジメントを進め、十分な授業時数の確保に努める。

評価の工夫

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。

校内研究・研修の工夫

指導と評価の一体化を目指し、学習評価の妥当性、信頼性を高めるために、評価に関する実践事例を蓄積し校内研修等で共有する。

小学校との連携

カリキュラムマネジメントの観点から、小学校からの学びのつながりを意識することで、より効果的な学習指導を展開するために、乗り入れ授業を活用する。

家庭・地域との連携

地域資源の活用や家庭および関係諸機関との情報共有により、開かれた学校づくりを進める。授業と家庭学習を連携させた新しい学習を定着させることで、個別最適化された学びを実現させる。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

数学の少人数指導での学習補助、英語の授業での個別指導の補助、長期休業中の補習学習の補助として活用を図る。

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

<p><b>国語科の重点</b>          生徒の発達段階に応じて、学習活動を充実させる。また、言語活動等を充実することで適切な表現ができる生徒、感性豊かな生徒の育成を図る。</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <p>2 学年：「新聞記事を書く」の問題において、伝えたい事柄を明確にして書くことができていなかった。          3 学年：「メモをもとに手紙を書く」問題において、適切な表現に書き直すことができていなかった。</p>

#### 【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す・書くといった自らの考えを表現することが得意な生徒が多い。</li> <li>・文章の読解に真剣に取り組んでいるが、苦手意識や課題がある生徒もいる。</li> <li>・文法や書写、漢字等については個人差が大きく、特に漢字や語句の意味等の取り組みについて顕著である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の考えに説得力をもたせるために、根拠のある意見を述べられるようにしていく。</li> <li>・文章の内容を読み取り、大切な部分を正確に捉える力を伸ばしていく。</li> <li>・言語に関する知識を定着させるため、授業内の帯時間や家庭学習の習慣化を図れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く・読むといった受け手の立場も踏まえた発信の仕方を定着させるため、具体的な話し合い方や書き方を指導した上で授業での実践を行っていく。</li> <li>・文学的文章や説明的文章の正確な読解力を伸ばすため、注目すべき語句表現や接続語などポイントの整理をした活動を実践していく。</li> <li>・单元ごとの漢字・語句の学習を行い、合わせて補習や家庭学習の方法の指導等も丁寧に行っていく。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み、書き取りへの苦手意識が強い生徒が多い。</li> <li>・自分の意見は積極的に言える一方、文章にして表現する際に文として成立するか、伝えたいことを正確に書いているかどうかを意識して書けていない生徒の割合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の苦手意識を軽減させるよう、授業内外で自発的に漢字に接する。</li> <li>・文章構成や論理に基づき読解する能力を身につける。</li> <li>・自分の意見を、相手に正確に伝わるよう発信する練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用し、読み、書きに苦手意識がある生徒へのフォローを引き続き行う。</li> <li>・文章の要旨を捉えて、筆者の意見や登場人物の心情をつかむために、段落の中心となる言葉やキーワードに気づけるよう、反復練習を行う。</li> <li>・短い意見や感想などを書く機会を多く作り、思考を言語化することに慣れる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことのうち、効果的に伝わるよう工夫することは得意であるが、適切な表現で書き表すことが苦手な傾向が強い。</li> <li>・説明的文章の、構成や展開を捉えることや具体的な事例にあてはめることが苦手な傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙文等の書き方の型を正確に理解したり、意見を述べる場合、説得力のある根拠を明確に示したりすることをできるようにする。</li> <li>・説明的文章の構成や展開のパターンや、読み取りの手がかりの見つけ方を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用機会の多い手紙文やメール文等の書き方を確認し、硬筆やiPadを使い実際に演習する機会を設け実践力を高める。</li> <li>・反論を予想した上で、説得力のある根拠とは何かを考え、明示した文章を書く演習機会を定期的に設け、定着させていく。</li> <li>・興味関心が低い分野の文章に対する苦手意識の強さも一因であると考えられるため、Googleclassroomを活用してNIEも含めた多様な分野の文章に触れる機会を増やし、慣れさせると同時に語彙力も高めていく。</li> </ul>

(2) 社会科

社会科の重点

各単元に「単元を貫く課題」を設け、学習の見通しを持たせるとともに、単元を大観する活動を通して、社会的な思考力の深化を図る。また社会的事象へのつながりを意識させ、自ら学ぶ姿勢を育む。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理・歴史に対する興味・関心が高い生徒が多いが、教科に対する苦手意識をもっている生徒もみられる。</li> <li>・基礎的な知識や技能の定着が不十分である。</li> <li>・個々の社会的事象への知識はあるが、つながりを理解していない生徒が多い。</li> <li>・自分の考えを文章にしてまとめられる生徒と、考えを言葉にしてまとめることに課題がある生徒がみられる。</li> <li>・提出物への取り組みが甘く、提出率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の知的好奇心を揺さぶり、興味・関心をもって主体的に参加できるような授業構成の工夫が必要である。</li> <li>・小学校で学習した内容や授業で学習した内容に関する知識の定着に課題がある。</li> <li>・学習したことを生かして概念的な理解として考えをまとめることに課題がある。</li> <li>・個々の具体的な事象から、一般的な知識につなげることに課題がある。</li> <li>・課題を期限までに不備なく仕上げるができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味や関心が高まるような学習課題を示す。また、授業中の発問や展開の工夫をする。</li> <li>・ICT 機器の活用や学び合い活動などの学習形態を工夫する。</li> <li>・授業の振り返りプリントや単元テストを活用し、継続的に家庭学習に取り組むよう促し、基礎的な知識の定着と学習内容の整理を図る。</li> <li>・考えをまとめる際、選択肢を設けたり、使う用語を示したりして、考える手立てを示す。単元振り返りシートを活用する。</li> <li>・課題や提出物を明確に示し、確実に提出するよう促す。自身で取り組めるように、取り組む手立てを明確にする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理・歴史に対する興味・関心が高い生徒もいる一方で、分野による苦手意識からの興味・関心が低い生徒もいる。</li> <li>・史資料を比較し、検討する技能が身についてきた。</li> <li>・自分の考えを根拠を明らかにして論理的にまとめられる生徒が増えた。</li> <li>・基礎的な知識の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習材、学習方法を見直し、生徒が興味・関心をもって主体的に参加できる授業構成をするとともに、生徒が理解できたことを実感できるようにする。</li> <li>・史資料からの読み取りや検討の作業に今後も取り組ませる。</li> <li>・学習したことを生かして考えをまとめるよう指導する。</li> <li>・提出物への取り組みが甘く、提出率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味や関心が高まるような発問や展開を工夫する。また、ICT 機器を用いた学び合い活動などの学習形態を工夫するとともに、学びの深まりを体感できるように授業展開を工夫する。</li> <li>・史資料の読み取り作業を、授業の中心となる学習課題として設ける。読み取ったことを根拠を明らかにして、説明させる。</li> <li>・単元の振り返りシートで、各授業でまとめたことを生かして、単元のまとめに取り組めるようにする。</li> <li>・課題や提出物を明確に示し、確実に提出するよう促す。継続的に家庭学習に取り組むよう促し、基礎的な知識の定着を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に社会科に対する興味・関心が高く、学習意欲もある。また、基礎的な知識・理解が高い生徒も多い。しかし、設問への回答などに消極的で、授業への受動的な姿勢が見られる。</li> <li>・資料やデータを読み解く力や、それを基に自分の考えをまとめ、発表する力は十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの生徒の興味・関心を高め、より積極的に参加できる授業を構成することが必要である。</li> <li>・資料やデータを多面的・多角的な視点をもって考え、自分の考えや意見を積極的に発表できる力を育てることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して、生徒の興味・関心を高める教材や授業の工夫を行う。公民分野については、現今の社会的課題や生徒の生活に結びついた身近な話題や出来事を教材に取り上げ、理解を深めさせる。</li> <li>・資料を収集・取捨選択し、自分の考えにまとめ発表できる力を身につけさせる。</li> </ul>

(3) 数学科

<p>数学科の重点</p> <p>発達の段階に応じ、数学的活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めさせる。</p>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 数学」の結果より</p> <p>全体的に目標値を上回り、中野区の平均と同程度の結果である。資料の活用の単元で目標値に到達していない設問があったので、今後振り返りの機会を作り、復習・確認の場を作る。</p>

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査では、目標値を6.4ポイント上回り、区の平均も上回っている。</li> <li>定期試験では、平均点が73.4点で基礎的な内容は理解しているが、「思考・判断・表現」の正答率は62%と「知識・技能」の82%と比べると低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な技能を習得している生徒は多いが、特別な支援が必要な生徒が多数いる授業クラスでは、授業の開始までに時間がかかっている。</li> <li>区の学力調査では、目標値を上回っているが、資料の活用、小数・分数の計算、百分率の項目が達成率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き毎時間授業の最初に計算ドリルを行い、4回に1回の割合で小テストを実施する。小テストでの半分得点を取れなかった生徒には、補習を実施する。夏季休業期間には補習教室、定期考査期間には質問教室を取り入れ、生徒の基本計算の定着を促す。</li> <li>特別な支援が必要な生徒には、個別に任期付短時間勤務教員についてもらい、学習への参加を促していく。</li> <li>達成率が低い項目については、中学の授業でも触れていき、復習していく。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査でも全体的に目標値を上回る結果となったが、基礎基本が定着していない生徒も多く、定期考査の結果では、大きな2山が現れる結果となっている。</li> <li>定期試験では「知識・技能」の正答率が60%を超えるのに対して、「思考・判断・表現」の正答率は50%に留まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年の定期考査の状況に比べると「知識・技能」の正答率が下がってきているので、基本的な計算に課題が見られる。</li> <li>「思考・判断・表現」については、苦手意識を抱えている生徒も多いので、日々の授業から、自分の考えを簡潔、明瞭、的確に表現する言語活動を取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き毎時間授業の最初に計算ドリルを行い、4回に1回の割合で小テストを実施する。小テストで半分の得点を取れなかった生徒には、補習を実施する。夏季休業期間には補習教室、定期考査期間には質問教室を取り入れ、生徒の基本計算の定着を促す。</li> <li>Google Classroomを活用し、考え方や表現を共有できる授業作りを取り入れる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本が定着していない生徒もいるが、多くの生徒が意欲的に学習に向かっている。</li> <li>定期試験では、「知識・技能」の正答率に比べ、「見方や考え方」の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見方や考え方」の正答率が低いことから、日々の授業の中で問題を解くときの途中の過程を記述する活動を大切に、授業で分かったことを自分の言葉で言語化する活動を取り入れたりする必要があると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き毎時間授業の最初に計算ドリルを行い、4回に1回の割合で小テストを実施する。小テストでテストごとに応じて、設定する目標点を取れなかった生徒には、補習を実施する。</li> <li>Google Classroomを活用し、問題の解答等を解説まできちんと確認できるようにする。</li> </ul>

習熟度別少人数指導の充実に向けて

- ・デジタル教科書等のICT教材を活用している。
- ・Google Classroomを活用し、授業の補足、章末問題の解説を載せている。
- ・授業で演習問題を行う際や、夏季休業中等の補習で任期付短時間勤務教員も指導を行っている。

(4) 理科

**理科の重点**  
 観察・実験の授業時間を確保し、技能の定着を図る。基本的な知識技能を基に実生活での技術や生き物の生態などを題材として活用し、科学的思考の基礎を確立する。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生での理科における実験・観察の既習事項にばらつきがある。</li> <li>理科に興味のある生徒は多く、意欲的に授業に参加している。</li> <li>自分の考えや実験結果などを文章にしてまとめることが苦手な生徒がいる。</li> <li>実験技能がまだ定着していない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・観察を行う際、小学校での既習事項の確認が必要である。</li> <li>結果の読み取り方、文章でのまとめ方に個人差がある。</li> <li>観察・実験において、実際に器具を使う人が限られ、全員が使い方や注意点を理解できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験・観察を行う際、安全指導や方法の確認を個に応じてきめ細かく行う。</li> <li>考察などの意見を書く機会を多く設定するとともに、書き方の指導や意見をまとめるときの要点の確認を行い、まとめ方の定着を図る。</li> <li>実験での班活動では、なるべく少人数で行い、役割をローテーションさせることで全員が参加する状況を整える。</li> <li>実験技能に関する確認テストを行い、定着を図る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力が定着しつつある生徒と、課題がある生徒の二極化が見られる。</li> <li>習得した知識を活用して、考察することが苦手な生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着に課題がある生徒がいる。</li> <li>結果から考察できることを読み取り、まとめることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを工夫し、自ら取り組んで定着をはかれる内容にする。</li> <li>学習した内容から、考察する過程を多く取り入れる。</li> <li>観察・実験の時間を確保し、課題に対するまとめの導き方を共有する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な用語の定着に課題がある。</li> <li>ある程度の実験技能は定着している生徒が多い。</li> <li>考察の記述は、昨年に比べ書くことができるようになってきている。</li> <li>自主学習ノートを通して、家庭学習の習慣が身につけている生徒が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般に基礎学力の定着に課題がある。</li> <li>観察・実験の結果を整理する過程での個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Google formsのテスト作成機能を使いながら、基本的な用語を繰り返し練習し、定着を目指す。</li> <li>特に「粒子」「エネルギー」領域を重点的に、班での考察の時間を多くとり、得意な生徒を中心に考え方などを学ぶ機会を増やす。</li> <li>定期的に小テストや単元テストを行って到達度を生徒へフィードバックし、学力の向上を目指していく。</li> <li>観察、実験の考察が苦手な生徒もある程度書くことができるように、考察に使用したホワイトボードやJamboardをGoogle Classroomで共有し、いつでも振り返ることができるようにする。</li> </ul>

(5) 音楽科

音楽科の重点

音楽科の重点

- ・生涯にわたって音楽に親しむ素地を育む。
- ・生徒同士の関わり合いを大切にしながら、自ら進んで表現する生徒を育てる。
- ・音楽の良さや美しさを味わい、音楽に対する感性を豊かにする。

【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>ほぼ基本的な生活習慣が身についているが、時折できない場面がある。</p> <p>・基本的な音楽用語・楽典の定着に課題がある。</p>	<p>・しっかり授業内容を「聞く・見る・書く」ができない場面がある。(聞いているが、書かない、書けない等)</p> <p>・音楽用語は知っていても、楽譜として使うことができないことがある。</p>	<p>・しっかり授業内容を「聞く・見る・書く」を定着させる。</p> <p>・基本的な音楽用語・楽典の定着を目指す。机間巡視・提出等、意欲を引き出す努力をする。(書く、発言する等)</p> <p>・その日に身につけたい内容を自分が把握できるよう、目標を明確にする。(音楽カード)</p>
2年	<p>・楽しく授業に参加している。</p> <p>・活発的に発言したり、積極的な姿勢がみられる。</p> <p>・感じた内容や自分の考えを、言葉にして相手に伝えたり、表現することが難しい。</p>	<p>・各自の目標・ねらいを立てて、それに向かう姿勢を育てる。</p> <p>・緊張感・あるいは恥ずかしさ等から発言しない。</p>	<p>・その日に身につけたい内容を把握できるよう、目標を明確にする。(音楽カード)</p> <p>・書画カメラ等を使い、ワークシートを全体に発表する。また、発言する機会を設ける授業作りをする。</p> <p>・ICTを活用して基礎的な知識を確実に身につけさせ、音楽の語彙を増やし、より良い言語活動に結びつける。(グループ活動を取り入れ、良い活動や良い意見を他者から学ぶ機会を設ける。)</p>
3年	<p>・ほとんどの生徒が良く学び、話を聞き真面目に授業を受けている。</p> <p>・言われたことや指導を受けた点は素直に聞き、改善するが、自分達で音楽の楽しさや課題を見つけることは苦手である。</p> <p>・意欲的ではあるが、発言などはあまり活発ではない。</p>	<p>・自分達で授業や音楽作りをより良いものにする集団作りの機会がない。</p> <p>・どんなところに注意して改善・発展をしていけば良いのかわからない生徒がいる。</p>	<p>・自分達で音楽を作ったり表現する主体的な活動を支援する。</p> <p>・グループ活動を取り入れ、積極的な活動や前向きな意見を他者から学ぶ機会を設ける。</p> <p>・ICTなどを活用して、発展的な知識・技能を習得できるよう、模範となる文章や演奏を提示する。</p> <p>・その日に身につけたい内容を把握できるよう、目標を明確にする。(音楽カード)</p>

## (6) 美術科

### 美術科の重点

造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する観点から、造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫したりし、豊かに発想・構想を練ったり、美術の創造活動の喜びを味わい、豊かな情操を養うことを目標とする。

### 【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の活動に意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」を身に付けさせたい。</li> <li>・鑑賞の授業で美術作品や他の生徒の作品について、興味を持って鑑賞する生徒が多い。しかし、造形用語を使って感じたことを表現することに慣れていない。</li> <li>・小学校図工での技術面での理解・定着について、経験値を上げてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで取り組む態度を高め、授業への興味がわくようにしたい。</li> <li>・「描写する力」「色を工夫する力」「構成を発想する力」を育む。</li> <li>・作品作りでなかなか案が浮かばない生徒がいる。</li> <li>・楽しく鑑賞の活動ができるよう導入や教材を工夫する。ICTを活用し、主体的に発表したり、対話的な鑑賞の能力を高めたい。</li> <li>・小学校図工の先生との乗り入れ授業や研修の機会を活用・工夫したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の工夫・美術室の整備・資料、参考作品を示す、ICTの利用など生徒の意欲を高める工夫をする。</li> <li>・生徒作品や参考作品を示し、友達の作品の良いところを伝え合うなどの工夫をして、お互いの表現の工夫や違いを気づかせ、表現の幅を広げるよう促す。</li> <li>・対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点があることに気付くなどの能力を高めたい。</li> <li>・小中連携で、授業のねらいを小・中の指導者が共有し、効果的な指導法や経験、体験をする活動を増やしていきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の活動に意欲的に取り組み、熱心に制作する生徒が多いが、主体的に取り組むことが苦手な生徒もいる。</li> <li>・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」を伸ばしたい。</li> <li>・鑑賞の授業で、美術作品や他の生徒の作品について、興味を持って鑑賞する生徒が多い。感じたことを造形用語を取り入れながら書けるようになる。また作品の制作された年代の時代背景なども考えられるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組む態度を高め、達成感を味わわせたい。</li> <li>・技法の伝達では、プリントやICTで説明し、実演したりして定着を促す。</li> <li>・制作中は個別で学習で行っているが、作業を行う時は話をしながら行う生徒が多い。</li> <li>・鑑賞の授業では、意見を発表させ、意見を共有することで、他の人の考えを知り、様々な考え方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の工夫・美術室の整備・資料、参考作品を示す、ICTの利用などの生徒の意欲を高める工夫をする。</li> <li>・生徒作品や参考作品を示し、制作中の友達の作品の良いところを伝え合うなどの工夫をして、お互いの表現の工夫や違いを気づかせ、表現の幅を広げるよう促す。</li> <li>・生徒の発言を促すような魅力的な鑑賞教材を準備し、鑑賞の能力を高める。</li> <li>・ワークシートを工夫し、他者との違いを認め、自分自身を大切にす気持ち、他人の作品や表現も大切にす気持ちを育てる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の活動に意欲的に取り組み、熱心に制作する生徒が多いが、主体的に取り組むことが苦手な生徒もいる。</li> <li>・表現の基礎となる「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」で独創性を深めたい。</li> <li>・鑑賞の授業で、興味を持って鑑賞する生徒が多い。感じたことを造形用語を取り入れながら書けるようになる。また、諸国の作品を比較鑑賞できるようする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組む態度を高め、題材選びや視点の与え方を工夫する。</li> <li>・プリントやICTで生徒作品や参考作品を示し、多様な表現方法があることに気づかせる。</li> <li>・ただ、アイデアを考えるのではなく、表現するために、完成形を予想して制作していくことが大切。</li> <li>・丁寧に作業することで得られることがあることを伝え、大切に作品をつくらせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断を広げ、表現につなげていくことができるようにする。</li> <li>・思考・判断から制作までの工程を想像させて、アイデアを練らせる。</li> <li>・作品完成後の作品に込めた思いをしっかりと記入することで、思考を通して表現できたことを実感させる。</li> <li>・参考作品を比較し、鑑賞することで丁寧な表現が達成感につながることを理解させる。</li> </ul>

(7) 保健体育科[男女共修]

保健体育科の重点

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- 1 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- 2 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 3 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が好きで積極的に行動する生徒もいるが、運動への苦手意識があり意欲に欠ける生徒もいる。</li> <li>・思考力や判断力が低く、自ら行動することができない生徒もいる。</li> <li>・体育委員、係を中心に自主的に活動する姿勢がまだ身に付いていない。</li> <li>・安全面やルール・マナー面を強化し、集団で活動するための基盤をしっかりと築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の運動能力は低い。また、運動の行い方等を理解できていない生徒も多い。</li> <li>・体育委員、係がリーダーシップを少しずつ発揮できるよう工夫する。</li> <li>・安全面やルール・マナーを意識し、集団で活動しようとしているが、できないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入での準備運動で北中サーキットを導入する。また、Google formsで授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う。</li> <li>・体育委員、係がリーダーシップを発揮できるような場面を多く設定する。</li> <li>・Google Classroomを活用し、家庭での予習を充実させる。また、授業後の復習に役立てる。</li> <li>・グループ学習や学習カード、ICT機器を利用する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの種目でも全体的に頑張れているが、自ら進んで授業に取り組むことができない生徒が多い。</li> <li>・体育委員、係を中心に頑張ろうとしている。</li> <li>・生徒個々が自ら進んで計画的に活動できる指導し思考・判断を高めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に運動能力は標準だが、自ら進んで授業に取り組むことができない生徒が多い。</li> <li>・リーダーシップを発揮する生徒が少しずつ増えてきている。</li> <li>・生徒が計画的に、考えながら運動をする習慣が少しずつ身についてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入での準備運動で北中サーキットを展開する。また、Google formsで授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う。</li> <li>・Google Classroomを活用し、家庭での予習を充実させる。また、授業後の復習に役立てる。</li> <li>・グループ学習や学習カード、ICT機器を利用して自分の課題を見つけことができるようにする。</li> <li>・自分の課題等をグループで発表させることで、共有し課題解決に生かせるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの種目でも全体的に頑張れている。また、基礎的な運動から真剣に取り組む姿勢がある。</li> <li>・体育委員、係を中心に自ら進んで授業に取り組む姿勢がある。</li> <li>・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての思考・判断・表現が少しずつ身についてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の運動能力は標準だが、全体的に進んで授業に取り組んでいる</li> <li>・感染症対策に留意し、できるだけ接触を避けた指導が必要である。</li> <li>・思考・判断・表現の観点を充実させ、計画的かつ自主的に活動出来る指導が必要である。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養うことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の準備運動で北中サーキットを導入する。また、Google formsで授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う。</li> <li>・Google Classroomを活用し、家庭での予習を充実させる。また、授業後の復習に役立てる。</li> <li>・グループ学習や学習カード、ICT機器を利用して自分の課題を見つけ、自ら運動の仕方などを改善できるようにする。</li> <li>・自分の課題等を全体またはグループで発表させることで、全体で共有し課題解決に生かせるようにする。</li> </ul>

**(8) 技術・家庭科(技術分野)**

**技術・家庭科(技術分野)の重点**

- 技術についての基礎的な理解や技能によって、問題を解決する実践的な資質・能力を育成する。
- 設計や製作などを通じて「技術による問題の解決」を構想しようとする態度を育成する。
- 学習活動を通して、技術の目で問題を見出す力や、主体的に設計・計画する力を育成する。

**【中学校】**

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
<b>1年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と主体的、対話的で深い学び、GIGA スクールによる新しい学びを創造することが求められる。</li> <li>ものづくりの経験が浅く、あらゆる場面において、技術の見方・考え方を働かせる意識は低い。</li> <li>ものづくりの経験は浅いが、技術に関する新しい知識に対し意欲的に学ぼうとする姿勢がある。</li> <li>技術に関する新しい知識に対し意欲的に学ぼうとする姿勢があるが、技術が社会の発展や環境の保全などにとって不可欠なものであることの理解が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の課題を効果的に活用して授業の重点化を図ることと、実習作業等において、三密を避けて授業を行うこと。</li> <li>乏しい経験を補い、興味関心を持続させながら作業を進めていくために、小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる。</li> <li>「設計・計画をする力」の育成と「技術による問題解決能力」の育成を重視し、生徒に技術の見方・考え方に気付かせることが課題となる。</li> <li>授業で身に付けた知識や技術と家庭や社会における実践との結びつきを深めさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンスは技術分野の学習内容に対する興味関心を高め、3年間の学習の見通しを持たせるものとする。</li> <li>随時、まとめのテストをおこない、基礎・基本の定着を目指す。</li> <li>基本形から設計を考え、作業の一部を選択式にするなど部分的に生徒が設計・計画できるように、制約条件を決めて取り組ませる工夫を行う。また、生物育成では、育成期間の短い作物を扱い、ICTを活用して学習効率を高める。</li> <li>小学校図画工作科での学習経験を踏まえ、複雑な構造の設計にせず、加工も単純なものとするが、精度の高い加工技術を身に付けさせるようにする。</li> <li>小学校プログラミング教育の内容を踏まえて、情報技術の仕組みを学習する。</li> </ul>
<b>2年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と主体的、対話的で深い学び、GIGA スクールによる新しい学びを創造することが求められる。</li> <li>エネルギー変換に関する技術に興味はあるが、学習内容を自分の生活と関連させ、エネルギーを効率よく利用しようとする姿勢には乏しい。</li> <li>技能の習得が難しい生徒がいる。その結果、作業進度にばらつきが生じることがある。</li> <li>情報に対する価値観、コミュニケーションの取り方など、スマホ世代ならではの見方・考え方を身に付けているが、情報セキュリティの指導の充実が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の課題を効果的に活用して授業の重点化を図ることと、実習作業等において、三密を避けて授業を行うこと。</li> <li>習得した知識や技術を活用し、課題解決のための学習活動を繰り返しておこなう必要がある。</li> <li>実現したい装置の仕組みや機能を考え、製品の機能を高める工夫を行う。</li> <li>体験で感じた事や実習で経験した事実を基盤にし、社会での技術利用を想像しやすく工夫すること。</li> <li>情報モラルを扱う中で、サイバーセキュリティの重要性について扱う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムマネジメントの観点からエネルギー変換の技術の学習は理科の電気学習と関連付けて指導する。</li> <li>製作後の学習を工夫することで、回路や機構を設計する思考力を育てていく。</li> <li>教材教具を工夫し、ICT機器を積極的に活用し、導入でわかりやすく説明できる授業の工夫と、プリントやワークシートの作成を行う。</li> <li>身近な製品に込められた技術の工夫を読み取る学習を行う。</li> <li>半導体など個別の内容に深入りすることなく、生活上の問題を解決することを明確にする。</li> <li>情報セキュリティの重要性について、社会的な影響についてもしっかりと取り扱うようにする。</li> </ul>
<b>3年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と主体的、対話的で深い学び、GIGA スクールによる新しい学びを創造することが求められる。</li> <li>ものづくりなど実践的な活動には、高い意欲を持って取り組むことができるが、与えられた枠の中で満足し、創意工夫が苦手な生徒が多い。プロジェクト型問題解決としてのものづくりへと転換することが求められる。</li> <li>作業進度に開きがあり、意欲はあるが時間内に完成できない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の課題を効果的に活用して授業の重点化を図ることと、実習作業等において、三密を避けて授業を行うこと。</li> <li>技術が果たす役割を、実習を通して感じた事や理解したことに関連づけることで、より理解を深めていく。</li> <li>問題の解決結果や解決過程を評価・改善するという活動の中で効果的に育成する必要がある。</li> <li>総合的な問題解決は、カリキュラムの集大成として相応しい内容のものを選定する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を工夫し、能力別に取り組めるように改善する。</li> <li>個々の到達目標を明確にさせ、能力に合わせた支援をする。また、作業の効率化を図るとともに、補充学習を行う。</li> <li>パソコンやプリントなどを活用したわかりやすい授業の実践と、授業記録などを活用し、主体的に学習に取り組むことを意識させるために、毎時間の目標を明確にし、目的意識を持って取り組ませるようにする。</li> <li>計測制御に関するプログラミングの内容、材料と加工の技術の内容を含めた総合的な問題解決を行う。</li> </ul>

## (8) 技術・家庭科

### 技術・家庭科(家庭分野)の重点

- 実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得。
- よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力と態度を育成。
- 生活の課題と実践など、主体的に取り組む問題解決的な学習内容の充実。

### 【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲もあり、前向きに授業を受けている。クラスによっては集中が続かない生徒もいる。</li> <li>・家庭内での体験不足もあり、小学校の実習のみで日頃は何もやっていない生徒もいる現状である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の50分授業に集中できずにいる生徒が一部に見られ、クラス全体の集中が途切れてしまう。</li> <li>・授業中の課題には、比較的意欲を持って取り組んでいるが、家庭の中での体験が不足している生徒もあり、自ら生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて、工夫することは苦手のようなのである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の定着をはかる。</li> <li>・机間指導をし、早めにアドバイスをする。</li> <li>・3年間の学習の目標を随時確認させる。また、毎時間の学習内容を示し、何を学んでいるか明確にわかるようにする。</li> <li>・長期休業中に衣食住に関する課題で、実践的な態度を養い、自らの生活の中で課題を見つけ、その解決に向け工夫して取り組ませる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲もあり、前向きに授業を受けている。</li> <li>・作品の製作においては、多くの生徒が、とても熱心に取り組んでいる。</li> <li>・基礎基本的な縫う作業は小学校で学習してきたが、一部の生徒は忘れていた現状がある。基礎的な縫い方の定着を課題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業に取り組む姿勢は前向きでよいが、作業工程を理解せずに行っている生徒もいる。また、裁縫に苦手意識を持っている生徒もいる。課題解決に向けて取り組ませる必要がある。</li> <li>・ミシン学習については、操作方法が曖昧な生徒もいたため、基礎基本的な縫い方の定着を確実にさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。</li> <li>・作品製作に入る前に、ミシン練習を行い、一通りの操作のしかたを理解させる。また、ミシンの扱い方の動画を段階毎に視聴し、グループで相互に教え合うなどで技能の定着を図る。</li> <li>・製作の説明時に、動画や実物見本を見せることにより、理解を深めさせる。</li> <li>・ハード面を充実させる。ミシン台数の不足など今後計画的に揃えていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲もあり、前向きに落ち着いて授業を受けている。</li> <li>・作品の製作においては、多くの生徒が、とても熱心に取り組んでいる。</li> <li>・創意工夫において、積極的に取り組む姿勢も見られる。</li> <li>・少ない授業時数の中で、知識理解と実践的な実習の取り入れ方のバランスを課題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲もあり、前向きで落ち着いて授業に取り組んでいるが、裁縫に苦手意識を持っている生徒もいる。課題解決に向けて取り組ませる必要がある。</li> <li>・創意工夫のある作品を製作しようとすると、授業時間内では完成させることが難しい。</li> <li>・図案の段階から進度に個人差が出てしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作の説明時に、動画や実物見本を見せることで理解が深まり、即作業に取りかかれるようにしていく。</li> <li>・iPadを用い、作品例を多く見ることによりイメージをつかみ、図案提出の効率化や作業能率の向上を図る。</li> <li>・毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。</li> </ul>

## (9) 外国語科

### 外国語科の重点

- コミュニケーションの基礎（聞くこと、話すこと、読むこと）を育成する。
- 生徒が意欲的に取り組めるコミュニケーション型の授業のあり方を模索する。

### 令和3年度「中野区学力にかかわる調査 外国語」の結果より

全国平均よりは上をいっているが、「場面に応じて書く英作文」の力が低い。日々の学習の中で、場面に合った表現を言葉にし、それを文として書ける力をつけていく。

## 【中学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として前向きに授業に参加し、アクティビティやペア活動では協力して取り組んでいる。また、ALTの授業を楽しみにしており、積極的に発言したり取り組んだりする姿が見られる。</li> <li>・英語を得意、苦手とする生徒の学力差が大きい。また、小学校ではライティング作業をやっていないことから、「分かっているつもりでも書けない」生徒が多い。</li> <li>・宿題や自主学習などの家庭学習の取り組みに個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図るために英語を「聞く・話す・書く・読む」機会を多くもたせる。</li> <li>・文字と発音の関係に留意しながら読んだり書いたりすることで規則性を習得し、自立した学習者となるようにする。</li> <li>・宿題や家庭学習を定着させる。</li> <li>・オンライン授業にも対応できるような授業作りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語での質問、指示、説明を継続することにより英語を聞いて理解できる環境を作る。また、ペアでの学習を通し、英語を発話する機会を多く設ける。</li> <li>・ALTを活用し、ネイティブの発音に慣れ親しむとともに英語で応答できる力をつけていく。</li> <li>・小テストやスプリングコンテストを実施し、語彙力習得と同時に達成感を味わわせ学習意欲に繋げていく。</li> <li>・間違いを気にせず自分の意見や考えを述べる機会を多くもたせる。</li> <li>・単元ごとに振り返りシートを記入し、理解できていない部分のアドバイスなどを行う。</li> <li>・宿題やプリントは都度チェックを行い支援する。</li> <li>・オンラインでも授業ができるよう教材やシステムの研究を進め、対面授業と同等の効果が期待できる授業を作る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として真面目に授業に取り組み、ペア活動にも協力して活動している。</li> <li>・全体の前で発表するような機会は消極的な面もあり、プレゼンテーション能力の向上が必要である。</li> <li>・基礎・基本の定着においては、二極化が見られる。提出物なども基礎・基本の定着と呼応するように二極化が見られる。生徒の意識付けをしていかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を聞く・話す・読む・書く機会を多く取り入れる。既習事項を用いて表現する能力の向上を図る。</li> <li>・自分の意思や考えについて、間違いを恐れることなく表現する能力の向上を目指す。</li> <li>・基礎・基本を定着させ、学力の底上げを図る。</li> <li>・iPadなどを用いて家庭学習の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて質問や指示・説明を英語で行い理解をしていく環境を継続する。ペアでの会話や表現活動などで、今までに学習した表現を用いて自分の言葉として使う活動を多く持たせる。また、任期付教員をペアや個人活動での場面に活用し、不安な点などを解決していく。</li> <li>・小テストやスプリングコンテストを実施し、語彙力の習得と同時に達成感を感じさせ意欲に繋げる。</li> <li>・基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。(単元テストなど) また、宿題や授業でのプリント等はチェックを行い、生徒にフィードバックする。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として真面目に授業に取り組み、アクティビティやペア活動にも互いに協力し、積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ペアでのやりとりにおいては概ね楽しく活動する姿が見られる。全体で発表するような機会に対しては消極的な姿勢がある。</li> <li>・提出物への意識が高い。提出は出来ているが、提出にとどまり定着までには至っていない生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図るため、英語を聞く・話す・読む・書く機会を多く取り入れる。既習事項を用いて表現する能力の向上を図る。</li> <li>・文字と発音の関係に留意しながら読んだり書いたりすることで規則性を習得し、自立した学習者となるようにする。</li> <li>・自分の意思や考えについて、間違いを恐れることなど、話したり書いたりする表現する能力の向上を目指す。</li> <li>・宿題や家庭学習を定着させる。</li> <li>・演習問題に取り組み、より応用力を身に付ける。既習の知識を総合的に活用し内容を理解する演習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。</li> <li>・小テストやスプリングコンテストを実施し、語彙力の習得と定着を図る。</li> <li>・必要に応じて質問や指示・説明を英語で行い理解をしていく環境を継続する。ペアでの会話や表現活動などで、今までに学習した表現を用いて間違いを気にせず自分の言葉として使う活動を多く持たせる。また、他の生徒とも学びあうような場面を設定する。相手を意識した取り組みとする。</li> <li>・宿題やファイルは都度チェックを行い支援する。</li> <li>・既習事項の復習の時間を計画的に設けたり、知識を活用して内容を理解・表現する演習問題に取り組む。</li> </ul>

### ALTの活用の工夫

- ネイティブの英語に慣れるように All English で授業を進める
- 自分の考えや意見を言えるように、少人数でのALTとの関わりの時間を設ける